



必須のコミュニケーション能力

田園回帰現象が取りざたされることが増えているが、農山村に足を運ぶと確かに若手就農者と出会う機会が増えている。ただし、田園回帰現象といえば半農半Xや自給生活を志向する若者をイメージするが、実態はこうした若者からビジネス的に農業を展開する者まで幅は広い。中身は多様であり、それだけに今後の日本農業にさまざまな可能性をもたらしてくれるように思う▼こうした中でそれなりに頑張っている若者たちを見ていて、共通して持っている能力と感じるのがコミュニケーション能力である。その一つがICTの活用であり、特に情報発信にすぐれている。どんな農産物をどのように生産しているかは勿論のこと、日常の暮らしぶり、さらには自らの生き方まで雄弁に語る。こうして消費者と直結し、宅配便で自らの農産物を届けるものが多い▼コミュニケーション能力のもう一つが、フェイスツーフフェイスによる相互に心を交流させていく能力である。マニュアル化した接客とは程遠い、田舎で暮らすことの喜びをバツクに、ともに共感しながら農と食の一体的世界へと誘う▼あらためて考えてみれば、このコミュニケーション能力は、既往の農業者が最も不得手とするものでもある。TPP合意を目前にして、今、日本農業が全体として求められているのが輸入農産物との差別化であり、その最大のポイントは生産者と消費者との強固な関係性の確立にある。外から来た若者が示すコミュニケーション能力を、既往の農業者がいかに身に着けていくか、喫緊の大課題である。

(土着菌)